

抑止

世間では「よくし」と読まれます。何かしらの力を用いて押さ



映画『二百三高地』
「美しい国日本
美しい国ロシア」
と奥柘に書く教師
今の時代は... 老作

えつけることを意味します。抑止力がはたらく時は、相手がその力がわかっているときには効果を発揮します。

核の抑止力という時は、お互いが核の恐怖を知っているからこそ初めて効力を発揮するのです。もし、その力が効かない相手(国)が出てくれば、本当に核を使う時が来るのかもしれない。それは麻雀でベテラン3人がいる中、一人初心者が怖いもの知らずで危険牌を平気で捨てているのと似ているのかもしれない。

仏教では抑止を「おくし」と読みます。人々が悪事を行わないよう仏が方便を用いることを指します。

『大無量寿経』で阿弥陀如来がすべてのものをすくいたいと本願を建てられますが、親を殺めたり、教えを誦する者は除くと言われました。この解釈について親鸞聖人が尊敬された善導大師は「抑止門」と言われました。これは罪を防止するための仏の方便だと。そして、すでに罪を犯した者は『観無量寿経』に説かれるように救われる道が説かれていると「撰取門」を説かれました。厳しさの前提に許しあり

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

和尚

西光寺のこども会に来る子ども達には、私のことを「おしよー」と呼ぶ子らが



ます。特に指定したわけでもないですがいつのまにかそう呼びます。一般の僧侶のことを「おしよー」というのは最近の事です。元々は、仏法の師を指し、戒律を授ける師や、または高僧のことを指しました。

古代インド語 upadhyaya(ウパヂャーヤ)が俗語でオッジャーとなり。これが中国で音写されて和尚と漢字が当てはめられました。宗派によっても読み方が違います。禅宗では「おしよー」、天台宗では「かしよー」、真言宗・浄土真宗では「わじよー」

だんだんと意味が広がり江戸時代になると武芸の師匠を和尚という事もあったようです。さらに意味は広がり、上位の遊女も和尚と呼ばれていました。過酷な労働環境の中、身元が引き受けられるのはわずか。お茶などの教養も受けていたことからそう呼ばれたのでしよう。



和尚の意味の拡大はそれだけ一般市民にも意味が伝わっていたという証拠なのかもしれません。